

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策事業		路河川名等	(地)八方岩地区					
事業毎の通番	2	市町村名	北安曇郡小谷村	箇所名(ふりがな)	八方岩(はっぽういわ)				
事業概要	事業目的	八方岩地区は北安曇郡小谷村に位置し、過去から幾度も地すべり滑動が発生している地域である。平成26年11月22日に長野県北部を震源として発生した地震に伴い地すべりが発生し家屋1戸が全壊し、緊急に事業を実施した。区域内の上部ブロックでは、今後の降雨及び融雪により地すべりの滑動が活発化すると甚大な被害が想定されることから早急に対策を行う必要がある。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)	事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法					
	関連する事業、計画等								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家14戸、村道800m、一級河川中谷川							
	着手年度	平成30年度	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	平成35年度	費用対効果	1.0	国庫	その他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	集水井工8基 集水ポンピング工5,300m 押え盛土工57,000m ³ 排土工36,000m ³ 法面工10,000m ²			750,000	375,000		300,000	75,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	山腹の安定化 25億円 (応急土砂撤去費)						
		間接的効果(定量的・定性的)	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少や減災が期待される。						
	評価の視点	必要性	○保全人家戸数 : 14戸 ○保全する河川 : 一級河川 中谷川						評価
						B			
重要性		○災害履歴 : 長野県神城断層地震(H26.11.22)、H7梅雨前線豪雨災害						評価	
								B	
効率性		○費用対効果(B/C) : 1.03 ○事業期間 : 6年間 ○代替案の検討 : 押え盛土工計画について検討あり ○他事業との連携 : 他事業との連携はない						評価	
								B	
緊急性	○地すべり滑動度: 降雨時に軽微な動きがある。 ○下流の整備状況 : 既設砂防堰堤は満砂状態で、移動土塊が河川に流出すると大規模な湛水が発生する。						評価		
							B		
計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(H27.3.19及びH28.3.19事業説明会を開催) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(維持管理に住民参加が見込まれる)また、H27住民主導型警戒避難体制づくり実施						評価		
							A		
部局意見	特定緊急改築事業の他事業箇所であり、既に実施しているが、依然地すべりが収束していないため、追加対策が必要とされる。						採択状況		
							○	B	
技術管理室意見	部局の意見を適当と認める。								

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので) (どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)		
	<p>位置図</p>	<p>平面図</p>	
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】 (なぜ整備が必要か、どのような整備を計画しているか。コメントや図形を駆使して、一般県民に分かりやすいものとする)		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昭和40年代より地すべり対策を行われてきた箇所、H7梅雨前線豪雨では中谷川の氾濫により大きく崩れた。近年ではH26の神城断層地震により大規模な地すべりが発生し家屋1戸が全壊した。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業箇所は小谷村中谷西地区にあり、保全対象の村道は唯一の避難経路となっているため、地元からは毎年要望されている。	
	③事業説明等の経緯	震災後において地元説明実施し、合意形成が図られている。 H27.3.19 第1回事業説明会 H28.3.19 第2回事業説明会	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	押え盛土工で不足している土材について、近隣の砂防堰堤に堆積している土砂を搬出し活用する。	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地域のシンボル木である椴(とち)の木を植樹し自然景観を再生するプロジェクトがある。	
⑥地域活性化への影響と配慮	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少を防ぐ。		
⑦その他	排土した残土を盛土工へ現場内流用し、土砂の場外搬出を抑える。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 00' 00" 00 東経:E 36° 00' 00" 00